

記者提供資料

2026年(令和8年)7月3日

文化スポーツ室

歴史文化財担当(稲原・溜池)

電話 918-5629 内線 7221

魚住文化財収蔵庫で 竹中氏旧蔵コレクション展を開催 —明石玉・明石焼・蛸壺を中心に—

この度、魚住文化財収蔵庫にて竹中^{としゆき}敏幸氏が明石市に寄贈されたコレクション品を中心とした展示を行います。明石市在住の竹中氏は、明石にゆかりのある資料を積極的に収集されてこられ、2025年にはそれらを市に寄贈して頂きました。その中でも、今回は明石にゆかりのある明石玉・明石焼・蛸壺の3つの品目を中心に据えた展示を行います。

明石玉は幕末の明石で発明されたといわれている人工サンゴで、大正時代頃までかんざしや数珠などに利用されていました。

明石焼は、江戸時代の中頃から明石で焼かれ始めた^{せゆう}施釉陶器の総称で、舞子焼やほのぼの焼などもこれに含まれます。

蛸壺は、古来より蛸漁の盛んだった明石地域で盛んに利用された漁具であり、各時代の飯^{いいたこ}蛸壺や真蛸壺が、発掘調査出土品や海揚がり品として見つかっています。

どの資料も現在では見ることが少なくなった貴重なものばかりです。かつて明石地域で一世を風靡した工芸品・焼き物・漁具が一堂に会する、またとない展示をお楽しみください。

観覧は無料。期間は2026年7月25日から8月30日までで、土日祝日も開館しています。休館日は月曜日です。

明石焼

明石焼は、江戸時代の中頃に明石で焼かれ始めた施釉陶器の総称で、朝霧焼や舞子焼、ほのぼの焼などが含まれます。花入れや茶器などの観賞用から、どんぶり鉢や湯呑み茶碗などの日用雑器まで幅広い器種が作られ、土産物や海外への輸出品としても有名でした。

明石玉

明石玉は、幕末の明石で発明されたといわれている人工のサンゴ玉です。卵の卵白を固めて色をつけたものが始まりで、かんざしなどの飾りに使われ、様々な製法が研究されながら、大正時代頃まで明石ならではの地場産業として栄えていました。

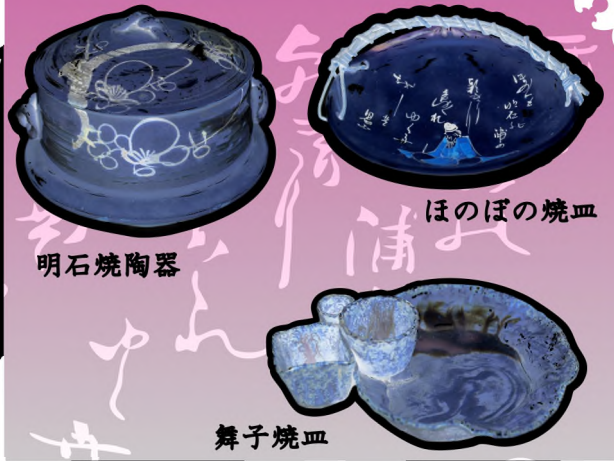


明石玉の数珠

明石玉のかんざし

竹中氏旧蔵コレクション展

明石市在住の竹中敏幸氏が個人で集められた貴重なコレクションの数々。今回は2025年に市に寄贈された明石玉、明石焼、蛸壺を中心に展示します。



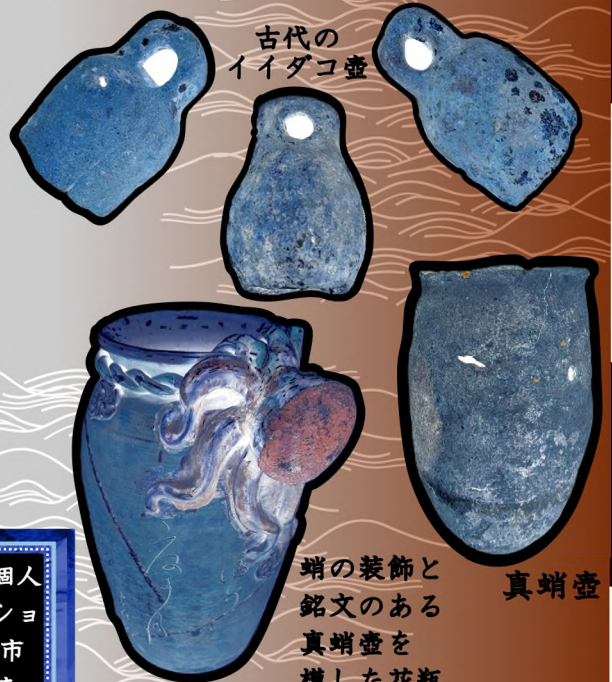
明石焼陶器

ほのぼの焼皿

舞子焼皿

蛸壺

全国有数のタコの漁場である明石では、古代からイダコ壺や真蛸壺を使ったタコ漁が行われており、近年まで伝統的な蛸壺を使った漁が続けられていました。

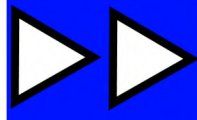


古代のイダコ壺

蛸の装飾と銘文のある真蛸壺を模した花瓶

真蛸壺

2026. 7. 25 (土)



8. 30 (日)



蛸を模した看板

観覧無料

- 開館時間 / 9時~17時 *月曜休館
- 駐車場 5台 (うち車椅子対応1台) (土日・祝日も開館)
- JR 魚住駅から徒歩 25分 ■山陽電鉄東二見駅から徒歩 20分
- たこバス山川北停留所から徒歩 5分
- 電話 / 078-918-5629 ■FAX / 078-918-5633
- 明石市民生活局文化・スポーツ室歴史文化財担当



魚住文化財収蔵庫

明石市魚住町西岡 2119 番地の 23



たこバス時刻表



詳細地図